

< 2 6 - 0 5 >

2 0 2 6 年 3 月

先生各位

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび別掲の項目につきまして、2026年4月より検査内容の変更を実施することとなりましたので、ご案内申し上げます。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■検査変更内容:

別掲の一覧表をご参照ください。

■変更実施日:

2026年 4月 1日 (水) 受付分より

以上

※ 詳細につきましては、次ページ以降をご覧ください。

●検査内容変更項目一覧

項目コード	項目名	変更内容	新	現	備考
19	アルドラーゼ	基準値 単位 再委託先	2.1 ~ 6.1 U/L 株式会社エスアールエル	2.7 ~ 5.9 IU/L 株式会社LSIメディエンス	現委託先の受託中止に伴い委託先の変更
2958	SP-D (肺サーファクタント プロテインD)	検体量 検査方法 報告範囲	血清 0.5 mL ラテックス凝集比濁法 15.0未満 ~ 最終値	血清 0.3 mL CLEIA法 15.0未満 ~ 100000 以上	
634	馬尿酸(HA)	検査方法 所要日数 報告下限 報告桁数	酵素法 2 ~ 3 日 濃度 0.1 g/L 未満 小数1位、有効3桁	LC-MS 4 ~ 5 日 濃度 0.01 g/L 以下 小数2位、有効3桁	
635	メチル馬尿酸(MHA)	検査方法 所要日数 報告下限 報告桁数	酵素法 2 ~ 3 日 濃度 0.1 g/L 未満 小数1位、有効3桁	LC-MS 4 ~ 5 日 濃度 0.01 g/L 以下 小数2位、有効3桁	
333	オステオカルシン (BGP)	検査方法 検体量 保存方法 (安定性) 基準値 報告上限 備考	ECLIA 血清 0.4 mL 凍結 (12週) M 8.4~33.1 ng/mL F(閉経前) 7.8~30.8 (閉経後) 14.2~54.8 ※結果コメント「V」 で表示いたします。 999000 ng/mL 以上 溶血検体は赤血球に含まれる プロテアーゼにより分解される ため、使用しないでください。 ビオチンを1日5mg以上投与・ 摂取している患者からの採血は、 投与後、少なくとも8時間以上 経過してから実施してください。	FEIA 血清 0.3 mL 凍結 (4週) 8.3 ~ 32.7 ng/mL 1000000 ng/mL 以上 溶血検体でのご依頼は避けて ください。	検査方法の変更
4049	隣グルカゴン(IRG)	基準値 報告下限 報告上限	8.8 ~ 45.2 pg/mL (空腹時) 3.0 pg/mL 未満 600 pg/mL 以上	5.4 ~ 55.0 pg/mL (空腹時) 3.5 pg/mL 未満 400 pg/mL 以上	測定試薬の変更
2345	抗カルジオリピン・ β2GP I 複合体抗体 (抗CL-β2GPI 抗体)		遠心分離後 冷蔵 (26日)	遠心分離後 凍結	
2343	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 (抗AChR 抗体)《RIA》	保存方法 (安定性)	遠心分離後 冷蔵 (2週)	遠心分離後 凍結	保存条件の見直し
1752	抗血小板抗体 (PB-IgG)		遠心分離後 冷蔵 (3週)	遠心分離後 凍結 (8週)	
2404	ループス抗凝固因子 《希釈ラッセル蛇毒 試験法》	基準値	dRVVT比 1.2 以下	1.2 以下 (NR:Normalized Ratio)	添付文書表記に準拠

●アルドラーゼ

現委託先の受託中止に伴い、同一試薬を使用している別の委託先に変更いたします。
 なお、この変更に伴い、基準値、単位を変更いたします。

変更内容	新	現
項目コード	19	同左
検査方法	UV-酵素法	同左
検体量	血清 0.5 mL [容器番号 : 01番]	同左
保存方法	冷蔵	同左
基準値(単位)	2.1 ~ 6.1 (U/L)	2.7 ~ 5.9 (IU/L)
所要日数	2 ~ 4 日	2 ~ 3 日
保険点数	11点(生化学(I)判断料 144点)	同左
報告桁数	小数1位	同左
最終委託先	株式会社エスアールエル	株式会社LSIメディエンス

●SP-D (肺サーファクタントプロテインD)

SP-D(肺サーファクタントプロテインD)は肺胞Ⅱ型細胞などで産生される親水性の糖蛋白で、肺胞内腔の虚脱防止による呼吸機能の維持や、マクロファージの貪食促進など生体防御に働きます。

SP-Dは肺に障害が起こる各種肺疾患において血流へ流出し、特に肺の繊維化を伴う間質性肺炎では血中濃度が高値を示すため、本検査は間質性肺炎の診断補助に用いられます。

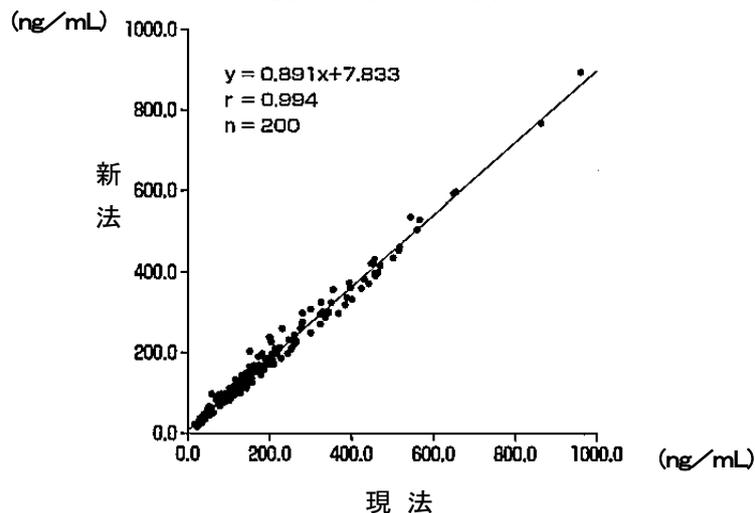
また、間質性肺炎では急性増悪時に著明に上昇するため、疾患活動性の評価に有用とされています。

この度、現在受託しているCLEIA法の試薬と同等の性能を有するラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査に変更いたします。

なお、この変更に伴い、検査方法、検体量および報告範囲を変更いたします。

変更内容	新	現
項目コード	2958	同左
検査方法	ラテックス凝集比濁法	CLEIA
検体量	血清 0.5 mL [容器番号 : 01番]	血清 0.3 mL
保存方法	冷蔵	同左
基準値(単位)	110.0 未満 (ng/mL)	同左
所要日数	2 ~ 4 日	同左
保険点数	136点(生化学(I)判断料 144点)	同左
報告範囲	15.0 未満 ~ 最終値	15.0 未満 ~ 100000 以上
報告桁数	小数1位	同左

《新法と現法の相関》



●馬尿酸・メチル馬尿酸

検査方法をLC-MS法から生化学自動分析装置を用いた酵素法に変更いたします。

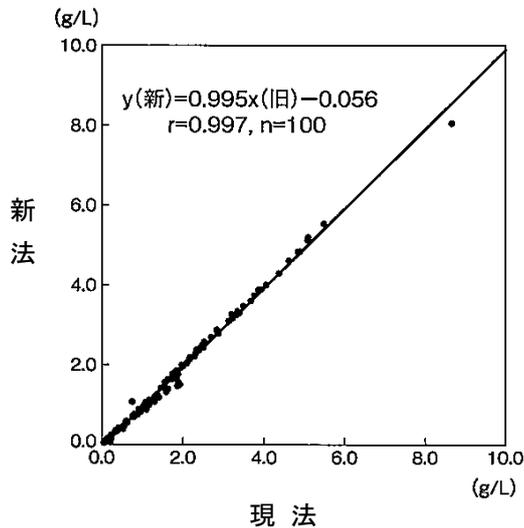
これまでLC-MS法による測定では、健康診断が集中する時期に結果報告が遅れることがあり、ご迷惑をお掛けしておりました。新試薬では、自動分析装置による大量処理が可能で、報告日数もこれまでより短縮いたします。

新現二法の相関は良好で、検査方法の変更に伴い所要日数および報告範囲の変更を行います。

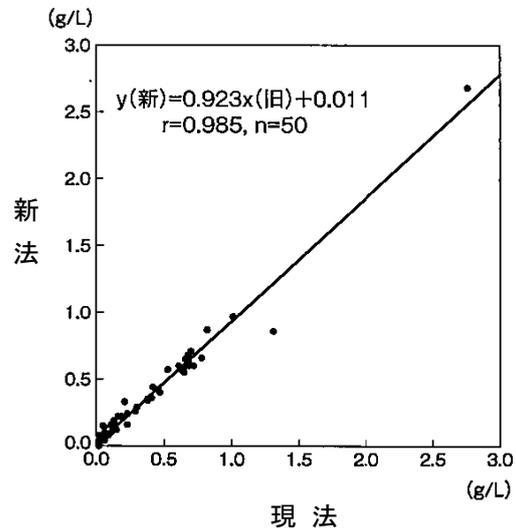
変更内容	新	現
項目コード	634	同左
項目名	馬尿酸(HA)	同左
検査方法	酵素法	LC-MS
検体量	尿 1.0 mL [容器番号 : 25番]	同左
保存方法	冷蔵	同左
所要日数	2 ~ 3 日	4 ~ 5 日
報告下限	濃度 0.1 g/L 未満	濃度 0.01 g/L 以下
報告桁数	小数1位、有効3桁	小数2位、有効3桁
項目コード	635	同左
項目名	メチル馬尿酸(MHA)	同左
検査方法	酵素法	LC-MS
検体量	尿 1.0 mL [容器番号 : 25番]	同左
保存方法	冷蔵	同左
所要日数	2 ~ 3 日	4 ~ 5 日
報告下限	濃度 0.1 g/L 未満	濃度 0.01 g/L 以下
報告桁数	小数1位、有効3桁	小数2位、有効3桁

《新法と現法の相関》

[馬尿酸]



[メチル馬尿酸]



●オステオカルシン（BGP）

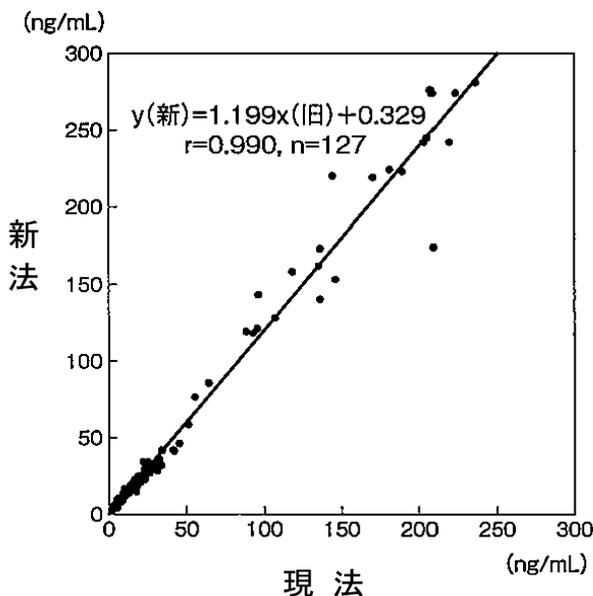
測定試薬をFEIA法からECLIA法による試薬に変更いたします。これに伴い添付文書記載の基準値に変更いたします。

なお、新試薬は測定系にビオチン(ビタミンB7)を用いており、多量のビオチンを摂取している場合は、測定結果に影響を及ぼす可能性があります。ビオチンを1日5mg以上投与している患者からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。

また、この変更に伴い、検査方法、検体量、基準値および報告上限を変更いたします。

変更内容	新	現
項目コード	333	同左
検査方法	ECLIA	FEIA
検体量	血清 0.4 mL [容器番号：01番]	血清 0.3 mL
保存方法 (安定性)	凍結 (12週)	凍結 (4週)
基準値	M 8.4 ~ 33.1 ng/mL F(閉経前) 7.8 ~ 30.8 (閉経後) 14.2 ~ 54.8 ※結果コメント「Vイ」で表示いたします。	8.3 ~ 32.7 ng/mL
所要日数	2 ~ 5 日	同左
保険点数	157点(生化学(Ⅱ)判断料 144点)	同左
報告上限	999000 ng/mL 以上	1000000 ng/mL 以上
備考	溶血検体は赤血球に含まれるプロテアーゼにより分解されるため、使用しないでください。 ビオチンを1日5mg以上投与・摂取している患者からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。	溶血検体でのご依頼は避けてください。

《新法と現法の相関》



●膵グルカゴン（IRG）

測定試薬を、現法と同一メーカーが発売する新試薬に変更いたします。新試薬では、グルカゴンが前駆体であるプログルカゴンから産生される過程で生じる類似物質が測定に与える影響が軽減されており、より正確なグルカゴンの測定が可能となります。

なお、この変更に伴い、基準値および報告範囲を変更いたします。

変更内容	新	現
項目コード	4049	同左
検査方法	E I A	同左
検体量	血漿 0.4 mL [容器番号：08番]	同左
保存方法	凍結	同左
基準値	8.8 ~ 45.2 pg/mL(空腹時)	5.4 ~ 55.0 pg/mL(空腹時)
所要日数	3 ~ 9 日	同左
保険点数	150点(生化学(Ⅱ)判断料 144点)	同左
報告下限	3.0 pg/mL 未満	3.5 pg/mL 未満
報告上限	600 pg/mL 以上	400 pg/mL 以上
備考	専用容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離して下さい。 血漿は必ず凍結保存して下さい。 溶血検体は低値傾向となります。 乳び検体は高値傾向となります。	同左

《新法と現法の相関》

